

「原発回帰」は許さない！ 第6次提訴

10月20日13時、伊方原発運転差止訴訟の第6次提訴（原告88名）を行いました。松山地方裁判所へ訴状を提出した後、愛媛県庁で新原告の北村親雄さん、塩川まゆみさん、中川創太弁護士事務所長、松浦秀人とめる会事務局次長らが記者会見に臨みました。

報告集会と記念講演

14時からR-2番町ビルにて報告集会、記念講演が行われました。

「伊方原発訴訟の現在」と題した記念講演で、薦田伸夫弁護士は、政府の「原発回帰」への方針転換、そして原発をクリーンエネルギーとするまやかしについて語りました。福島過酷事故以前の原発訴訟は、第1次伊方訴訟も含めて「裁判所が原発反対運動を鎮圧する役割を果たした」こと、3・11後に住民側の勝訴判決が出るようになると、最高裁が判決直前に裁判長を差し替えるなどの「原発人事」を行うようになったこと。しかし、原発の高コスト、反倫理性など、世界の趨勢を考えると、原発をとめるのは「時間の問題」であり、そのためにも原告・支援者が脱原発の機運を高めることが大事だと熱く語りました。



(前列左から、中川弁護士、北村さん、薦田弁護士、塩川さん)

報告集会では、北村さんが「原告であった妻が亡くなり、遺志を引き継ぐために今回の原告になった」と語りました。塩川さんは「3・11をきっかけに、Iターンで内子に移住した。しがらみのない私が今後もやっていく」と語りました。

松浦事務局次長が「当初は追加原告50人を目標にしていたが、結果的に88名にも及んだ。この勢いで勝訴を目指して頑張っていきたい」と述べました。



記者会見

伊方原発運転差止訴訟第6次提訴	1
第36回伊方集會に参加	2
岸田政権の「原発回帰」に抗議	3
差止訴訟 第31回口頭弁論報告	4
伊東英朗さんの映画制作をお手伝い	5
松山市駅前定例アクション	5
インタビュー その19 杉山洋さん	6
これからの予定 編集後記	8

伊方原発運転差止訴訟 第31回口頭弁論

12月13日(火)15時30分開廷 松山地方裁判所31号法廷

原告の方は14時、傍聴希望の方は14時30分に松山地裁ロビーにお越しください。

弁護団から火山問題と証人の採否について

原告の意見陳述は、3・11後に愛媛に移住してきた方を予定しています。

※ 記者会見・報告集会 16時30分頃～ 愛媛県美術館講堂（松山市堀之内）

原告、支援者の皆さま、どうぞご参集ください。
いつもより開廷時間が一時間遅くなっています。お間違いのないようお越しください。

第6次原告になって

提訴後の報告集会



第1次訴訟から11年、約1500人の原告のうちの1人として、今回の6次訴訟に参加しました。

すでに今でさえ、未来の世代に大変な課題を残すことが確実な私たちなのに、これ以上の放射性廃棄物を出すようなことをしたくない。

私もまだまだ勉強中ですが、知れば知るほど原発は「無理」です。原発を稼働する一方で、「子どもたちの明るい将来」だの「環境保全」だの「地域の振興」を口にするのは大変な矛盾です。両立しようがない。

塩川 まゆみ（内子町議会議員）

岸田政権により、原発新增設・稼働期間の延長など、危険を顧みない政策が推し進められ、福島第一原発の悲劇と教訓が風化されようとしています。原発の悲劇を繰り返さないためにも、子どもたちに負の遺産を押し付けないためにも、常に「原発廃炉」の声をあげ、立ち向かわなければなりません。政府の強引な再稼働や原発裁判の壁など、脱原発を切に願う思いが何度も踏みにじられ、悔しい思いもしてきました。しかし、これまでの私たちの努力は、決して裏切られることなく、一つ一つが実を結んできていると信じています。

原告団の一人として、脱原発の想いや情報を共有できる仲間を増やしながら、「原発がなくても電気は足りる」「核と人類は共存できない」ことなどを世論に発信していきたいと思います。

諦めることなく最後まで闘うことこそが、勝利の鍵です。微力ですが、大衆運動や裁判闘争の前進・勝利に、お役に立ちたいと思いますので、よろしくお願いします。

原田 竜也（社会民主党愛媛県連合 副幹事長）

第36回伊方集会に参加 避難ルートも検証

伊方集会
原発ゲート前舗道で



10月23日、第36回伊方集会（原発さよなら四国ネットワーク主催、伊方原発をとめる会協賛）に松浦秀人事務局次長以下、事務局から5人が参加してきました。

10時から11時半まで行われた四国電力伊方原発ゲート前の集会には、四国4県、大分、広島等から約60名が参加、各グループがリレースピーチで、伊方原発の廃炉を訴えました。とめる会からは松浦さんが裁判等への更なる支援などを訴えました。最後に、伊方集会参加者一同から四国電力・長井啓介社長宛ての要望書を、伊方原発・細川総務課長に手渡しました。

狭くて急峻な山道、本当に安全に逃げられる？

13時から、伊方町の避難計画にある「ルート2」——豊之浦集会所から一時集結所の伊方中学校までの海沿いの避難経路を通ってみました。出発点の豊之浦は伊方町の防災マップによると、集落全体が地滑り警戒区域で、各所に土石流と急傾斜地の特別警戒区域が

あります。その上、豊之浦集会所は狭くて急な階段を60段ほど登った先にあり、車いすの参加者は辿り着くことができず、海岸での待機を余儀なくされました。

伊方中学校へと続く各集落をつなげる避難経路は、狭く曲がりくねったカーブの連続で、地震や大津波に見舞われたら、これらの避難道路は土砂崩れでたちまち通れなくなるでしょう。これでは原発事故が起きたとき、住民の命は守れない。

実際に車で走ってみると、伊方町の避難計画が、いかに机上の空論であるかがよく分かりました。



ゲート前でのスピーチ

岸田政権の「原発回帰」への政策転換に抗議!!

今年7月の参院選が終わるのを見計らったように、8月24日、岸田文雄首相は首相官邸で開かれたGX（グリーントランスフォーメーション）実行会議の第2回会合で、原子力について、次世代革新炉の開発・建設、再稼働の加速、運転期間の延長、再処理・廃炉・最終処分プロセス加速化という四つのテーマについて、年末までに検討するよう、経済産業省や与党に指示した、という報道がありました。

これは、ウクライナ危機によるエネルギー価格の高騰や電力需給の逼迫、CO2排出削減を口実に、原子力を最大限活用するというもので、この国の原子力政

策の方針を大きく転換させることになります。

昨年10月に国が策定した「第6次エネルギー基本計画」で、「原子力については安全を最優先し、再生可能エネルギーの拡大を図る中で、可能な限り原発依存度を低減する」と決めたことを反故にするものです。

2011年の東京電力福島第一原子力発電所の事故などなかったかのような「原発回帰」の政策転換は、子々孫々にまで災禍をもたらす危険きわまりないもので、断じて許すことはできません。

伊方原発をとめる会は9月22日、岸田首相宛てに下記のような抗議声明を送りました。

- 一、福島原発事故を顧みない「原発稼働方針」、老朽原発の「運転延長」、「次世代革新炉の開発」方針に厳しく抗議する
- 一、原発事故の危険と核廃棄物処理の困難を無視した財界方針丸呑みで、国民に災禍をもたらすものである
- 一、国内原子炉の停止と廃炉こそ急ぐべきである
- 一、電力系統に蓄電池変電所と蓄電所を設置し再エネをフル活用せよ

*GX実行会議とは

内閣官房のHPでは「産業革命以来の化石燃料中心の経済・社会、産業構造をクリーンエネルギー中心に移行させ、経済社会システム全体の変革、すなわち、GX（グリーントランスフォーメーション）を実行するべく、GX実行会議を官邸に設置しました」とあり、すでに7月27日、8月24日、10月26日の3回開催されている。

伊方原発
3号機は右端



四国電力 三菱重工と新型原子炉開発へ

その後9月末には、三菱重工業が、四国電力、関西電力、北海道電力、九州電力の4社と協力して、新型原子炉（加圧水型軽水炉）を開発し2030年代半ばの実用化を目指す、との報道があった。新型原子炉の出力は120万キロワット程度を想定しているという（現在稼働中の伊方原発3号機は89万キロワット）。現状でも四国の電気は十分足りている。原発依存は、再生可能エネルギーへの転換の足を引っ張るだけではないのか。腹立たしい限りだ。

原発容認の中村時広愛媛県知事が再選！？

11月20日、愛媛県知事選挙が行われ、現職の中村時広知事が再選された。4期目である。

中村知事はメディアの取材に対し伊方原発について「原発は絶対安全なものではない。理想論で言えばないに越したことはない。ないというのはいとも簡単なことだが、現実問題それができるかといったらすぐにはできない。原発に変わりうるエネルギーをどう見つけ出していくのか。その条件とは、安定供給と出力とコスト、この3条件を満たす代替エネルギーが見つか

るまでは、そのときどきの最新の知見に基づく安全対策を施しながら、原発と向き合っていかなければならない、というのが日本の宿命だと思う」と述べている。

知事は、3・11後、この間ずっと同じことを言いつづけてきた。科学技術の進歩や世界の動向など見ていないのだろうか。四国は自然エネルギーの宝庫である。原発依存をやめ、自然エネルギー推進の先進県へと、すぐにでも舵を切ってもらいたい。愛媛県への要請行動も強化していかなければならない。

伊方原発運転差止訴訟 第30回口頭弁論 「絵に描いた餅の避難計画」を突く

9月28日、松山地方裁判所にて伊方原発運転差止訴訟第30回口頭弁論が行われた。原告席に32名が入廷し、原告側弁護士の準備書面の要旨陳述、火山についてのプレゼンテーション、二人の原告の意見陳述が行われた。

薦田伸夫弁護士は、準備書面（99）「避難計画の不備についての再反論」のなかで、「被告（四国電力）は避難計画の不備についての原告の主張を論難しているが、いずれも核心を外した論難に過ぎず、再反論を必要とする内容ではない」と切り捨てた。

東翔弁護士は準備書面（98）（100）について、スライドを使って補足説明を行った。原発の安全対策指針となる「火山影響評価ガイド」は、火山学の専門家の「火砕流が来そうなところには原発を作らないのが基本」「大規模噴火を想定外として目をつぶることは火山学として許されない」という見解を無視して策定されていることを明らかにした。

原告二人の意見陳述

子ども達に「原発をやめた町」を手渡したい



清水あや子さん（伊方町）は、50年振りに戻った故郷の衰退に心を痛める一方、原発事故が起きて住民は安全に迅速に避難できないとして、自然エネルギーへの転換を図ることこそ、四国電力の進むべき道ではないかと語り、人間の手に負えない原発を次の世代に押し付けてはならないと訴えた。

「陳述していて緊張で手が震えた」と清水さん。

福島原発事故をきっかけに愛媛に移住

関根律之さん（内子町）は、3・11後に千葉県から家族と愛媛に移住し現在は、内子町議会議員として2期目。

リスクのある原発を動かす、行き場のない核のゴミを増やし続けることは無責任で許されない。

脱炭素社会のエネルギーの主角を再生可能エネルギーに転換し、将来世代に負の遺産ではなく、豊かな環境を残すことこそ私たちの責務だと訴えた。

「初めて見た原発訴訟の現場に感動した」と関根さん。



松山地裁前入廷行進

「傍聴席を原告・支援者で埋め尽くしてほしい」「この裁判体で判決を！」と弁護団

中川創太弁護士事務所長

「この裁判体に判決を書いてもらおうと立証の準備中。原告には『原発の危険性』、専門家には『地震動、避難問題、過酷事故』について証人尋問したい。来年3月頃には立証計画を立て、1年前後の期間で集中的に証人尋問に取り組みたい」

薦田伸夫弁護団長

「証人尋問が始まると、審理が午前・午後と長くなるが、ここが勝負時だ。傍聴席を原告・支援者で埋め尽くしてほしい」

裁判を傍聴して

伊方原発運転差止訴訟の原告団に加わってから、自分との約束事を二つ決めた。一つは毎週金曜日に県庁前で行われている原発反対行動に、毎月最低一回は参加すること、もう一つは裁判傍聴によほどのことがない限り参加することである。くじ運がないので傍聴券の抽選にもれたことはあるが、ほぼ参加している。

毎回、原告の方の陳述書に心揺さぶられる。一人一人の人生が凝縮されて語られており、ただ安心して暮らしたい、次の世代に原発のない安全な社会を引き継ぎたい、と過大な要求ではなく、ごく当たり前の切実な思いが、ひしひしと伝わってくる。

それに比して電力会社側は、言葉尻を捉えるがごとく姑息な主張で醜悪。国の原発推進策が後押ししているのだろうが、会社にとって常顧客でもある住民の真摯な訴えを聴くことこそ「持続可能な」産業になるのではないかと？

自分の中で福島事故を風化させないため行動を続けていきたい。

林 恵美（松山市在住 第二次訴訟原告）

「核実験で全米が放射能汚染した事実を アメリカ人に知らせたい」：伊東英朗さん

泉 京子（伊方原発をとめる会事務局）

10月下旬に脱原発の仲間から1本の電話が入った。アメリカが1954年に行ったマーシャル諸島ビキニ環礁の水爆実験を取り上げた『放射線を浴びたX年後』の制作者、伊東英朗さん（元南海放送ディレクター）が、英語資料についてのボランティアを探しているという。たまたま彼の作品を見ていて、愛媛にもどえらい人がいると感嘆していた私は「やります」と即答。直ぐに伊東さんから丁寧な電話とメールを頂いた。

伊東さんは、クラウドファンディング（インターネットを通して自分の活動を応援したいと思ってくれる人から資金を募るしくみ）で、新たに制作中の映画『放射線を浴びたX年後3』を来年3月に完成させて、アメリカで公開予定という。コロナ禍等もあり、8月の渡米取材で手に入れた膨大な英語資料を、AI翻訳を利用して日本語にする作業に遅れが出ているという。しかもAI翻訳にかけるためには、PDFファイルで持ち帰った英語資料を全て、ワード形式に変換する必要がある。そこに人手がいるということだった。

早速、資料をもらい2台のパソコンを相手に作業中だが、内容が面白い！1950～60年代の往復書簡から垣間見えるのは、核実験による子どもの被ばくを心配したアメリカの母親たちが、科学者らと協力し

て、子どもたちがストロンチウム90に汚染されている事実を明らかにしようとする市民運動の大きなうねりだ。その結果、当時のケネディ大統領が、大気圏内核実験の中止を決意し、さらに世界に呼び掛けることになったという。

そういえば子どもの頃、回りの大人たちが「雨にあたるな！ストロンチウム90で髪が抜けるよ」とうるさく言っていた。そんなことを思い出しながら、私は時間を捻出して、英語資料に当たっている。

放射能汚染の危険性を市民に知らせる運動の発祥の地であるアメリカの町から、隣国にまで伝播したムーブメントの渦中にタイムスリップ中！



伊東さんが開設していたネットのクラウドファンディングの画面

伊方原発をとめる会 松山市駅前定例アクション



「伊方原発いらん！市駅前アクション」は、反原発の声を目に見える形で表したい、市民県民に「伊方原発の運転はとめて、廃炉に！自然エネルギーへの転換を！」の声を届けたいと願い、2018年12月以降、毎月1回（現在は第1水曜日）松山市駅前で行っています。12月のアクションで、丸4年を迎えました。

高知のミュージシャンが飛び入りで参加

11月2日の定例アクションでは、スタンディング、リリーススピーチに加えて「岸田政権の新・原発推進政策に反対する全国署名」（呼びかけは「さようなら原発1000万人アクション実行委員会」）への署名行動も行いました。

また、お馴染みの「げんさよ楽団」には4人の俄か歌姫も登場して「ふるさとは原発を許さない♪♪～」と道行く人々に訴えました。

街宣中、思いもかけず、高知のロックミュージシャン、ボンバー野郎 鬼龍さんが飛び入り参加してくださいました。福島を想って作ったという「土と水」など2曲を絶唱。「子や孫に帰れない故郷を作った、という責任が僕らの世代にはある」と訴えました。「高知 私たちの主張」というグループに所属し、月に2～3回、高知中央公園で、「レジスタンス・ライブ」を行っているとのこと。鬼龍さんとの嬉しいコラボ・定例アクションとなりました。次回12月7日（水）から時間が変更します。昼の12時15分スタートです。皆さま、一緒に声を上げましょう！



ボンバー野郎 鬼龍さん

生育環境の厳しい子らに寄り添って

杉山 洋 さん（第6次原告 松山市光洋台在住）

今号は、杉山洋（すぎやま ひろし）さんの登場です。杉山さんは、この春まで永らく児童養護施設の施設長を務められていました。その施設の一室をお借りしてのインタビューです。脱原発運動という視点からは異色かも知れません。ご一読ください。

萩市の出身で高知大学へ

問い：まずはご出身地や生年月日をお尋ねします。

杉山：山口県の萩市で、1947（昭和22）年1月2日の誕生です。萩市と言っても山奥の農家で、兄弟4人の祖父母を含む8人家族でした。高校卒業まで過ごしました。

問い：高校卒業後は、どうされましたか？

杉山：高知大学文理学部に進学しました。

問い：その頃は、学生運動の高揚期だったのでは？

杉山：群れるのが嫌な私は、学生運動に関心を持って、ノンポリの一匹狼でした。

問い：どんな学生生活を？

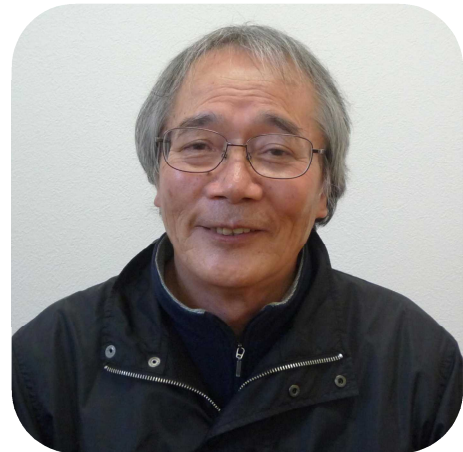
杉山：一言でいうと真面目な苦学生。アルバイトは手当たり次第やりましたが、長期休暇のときは自転車の一人旅をしました。1年生のとき、高知から宇和島、高松、岡山、広島と自転車で回って萩の自宅に帰ったのですが、この時、広島で原爆資料館を見学し、核兵器や戦争の残酷さを深刻に知りました。2年生の夏休みは、返還前の沖縄の自転車一人旅でした。自分の目で初めて戦車や空母を見、米軍基地の中（芝生の美しい家）と外の格差も知りました。お世話になった小学校の教師に、沖縄戦の跡地も案内してもらいましたが、まだ白骨が残っていました。

生き方に悩み、児童養護施設へ

問い：大学の卒業後は？

杉山：普通に一般企業に就職し、広島で社会人生活を始めました。順調なサラリーマン生活が始まったのですが、数年たった頃から「自分の人生、これでいいのか？」の疑問が大きくなりました。会社ではスーパーの新規出店業務にも携わっていましたが、新規出店には必ず地元商店街の反対運動が起こります。同時に、消費者サイドからは歓迎の声があがり、ひと悶着のすえ新規出店となります。やがて商店街は寂れてシャッター街と化し、コミュニティーも破壊されます。自分たちは勝ち組ですが、負け組との間に格差が生まれます。「これが幸せか？」と同僚たちと話し合いました。

問い：同僚の方々も、同じ悩みをもっていたのですか？



杉山洋さん近影

杉山：みんな同じように悩んでいましたが、実際に転職に踏み切るのは勇気がいりました。私は農家の出身で、自然を相手の競争のない中で育ちました。「奪い合う」生き方より、「分かち合う」生きの方が、自分に合っていたのだと思います。そこで、28歳の時に転職しました。

問い：その転職先が松山市にあったのですか？

杉山：当てもなく退職し、親に反対された農業以外の教育・福祉関係の仕事を探し、旧北条市（現在の松山市）の三愛園という児童養護施設に入職し、当時は敷地内の寮住まいでした。

やりがいを実感した施設

問い：施設内での主な仕事は何ですか？

杉山：児童養護施設は、家庭環境に恵まれない子ども（おおむね2～18歳、場合によっては20歳）をお預かりして、養育保護、自立支援をしていく施設です。基本的には子どもと共に生活します。起床から就寝までの食事、登下校、園内保育、余暇、学習、入浴等の世話。掃除、洗濯、修繕、健康管理、受診、進路、家庭との関係調整、地域や関係機関との連携など、何から何までです。当時、男性職員は一人でしたから、フル回転でした。

問い：待遇と言うか労働条件は、低下したのでは？

杉山：ええ。労働時間は、前の職場の残業を含めた倍に増え、賃金は半分になったので、時給に換算すると4分の1になりました。

問い：いきなり児童養護施設の指導員といっても、何かと困りごともあったのでは？

杉山：専門的な知識も訓練もなかったのですが、それまでの会社生活と違って、楽しいというかやりがいを感じました。困ったことは何度もありましたが、それが仕事だと思っていて、辞めようとは一度も思わず47年間勤めました。

問い：施設長もなさったのですよねえ。

杉山：1975年の入職で、2002年に施設長になりました。性格的には管理職に不向きな私ですが、自分なりに力を尽くしました。行政にはかなり意見や注文を出した方です。『六法全書』を片手に激論を交わしたこともありましたが、もっと早くにバトンタッチしたかったのですが、今年の3月にやっと辞めさせて貰いました。もっとも今も理事で、週に5日くらいはボランティアで来ています。

問い：振り返って、どんな心境なのでしょう？

杉山：退所した子が訪ねて来てくれると嬉しくて、結婚して子連れでの訪問者に接すると、この仕事をして良かったとしみじみ感じます。それが自分自身への贈り物です。

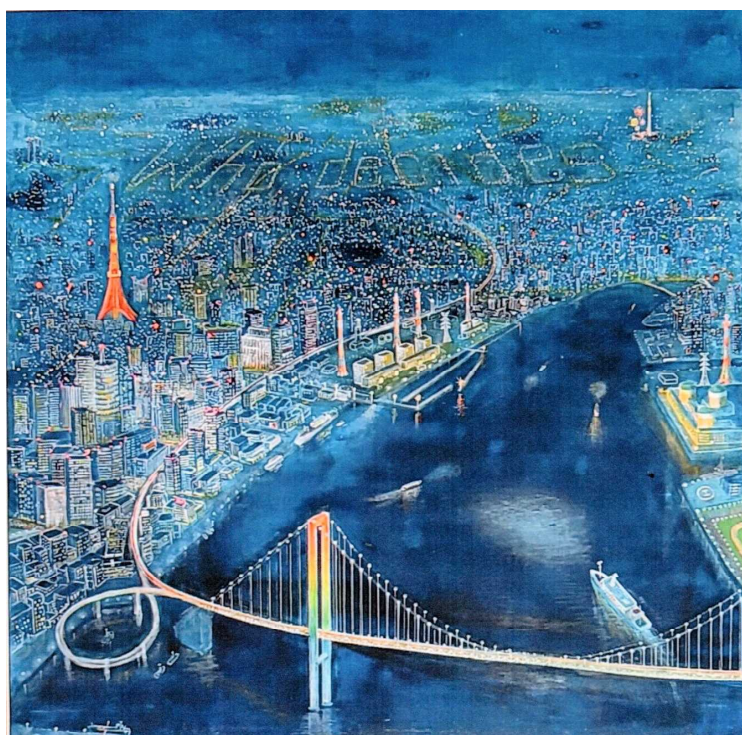
半年ごとに福島への被災地訪問

問い：福島原発の事故以前は、原発をどう思われていましたか？

杉山：アメリカの核戦略に利権が絡み、導入したものだとして理解していましたが、リスクがあることは分かっていたのですが、反対運動に関わることはありませんでした。

問い：福島への被災地に何度も行かれていたのか？

杉山：事故の年の秋に、いわき市や広野町まで行きました（そこから先には入れなかった）。その後は約半年ごとに行っています。岩手、宮城もですが、福



杉山さんの油絵作品「イマジン東京原発」

島でもボランティア活動をするでもなく、一人でただ見て回るだけですが、この惨状を他人にはしたくないという思いが強くありました。コロナ禍で中断せざるをえなくなりましたが、つい先日再開することが出来ました。

問い：伊方原発をとめる会総会などの会場口ビーで展示させてもらっている、大きな油絵「請戸小2019遺したものは」は、いつ描かれたのですか？

杉山：14回目（8年目）に行った時に、請戸小学校の悲惨な様子を見て描きました。

問い：油絵は趣味で取り組んで来られたのですか？

杉山：いいえ、初めてです。自分の見たものを形にする義務感のようなものを感じたのです。

問い：近作の「イマジン東京原発」という油絵は、夜の東京湾を挟んで福島原発と伊方原発が対峙している、綺麗というか怖ろしいというか……。どんな思いで描かれたのですか？

杉山：原発回帰の岸田政権とそれを容認するかの風潮に、抗いたい気持ちからです。縦・横とも約90センチです。

取り返しのつかない原発事故の爪痕

問い：通い続けて11年間、福島の変化は？

杉山：地震や津波被害の点では、岩手から宮城、福島と、同じように堤防・植林・街づくりが進んでいます。ただ、福島は人が戻って来ていません。大人たちはインフラも仕事も充分でないで帰り辛く、子どもたちは放射能汚染の危険から親が戻らせたがらず、子たちも避難先でのコミュニティーで育っていて今さら戻れず、解除後の帰還率も数パーセントにとどまっています。ともかく、事故を起こせば取り返しのつかない被害を原発はもたらします。

問い：第6次提訴の原告に応募されたのは、何故ですか？

杉山：反原発運動に参加していないのが不自然だと思ったこと。これからは応援席ではなく、フィールド内でプレーヤーとして反原発運動を進めたいと思っています。みなさん、よろしくをお願いします。

◆◆◆ インタビューを終えて ◆◆◆

初めて親しくお話する機会を頂いたが、失礼な質問にも誠実に応対して下さった。ちなみに、杉山さんが長年尽力されて来た施設の現在の入所者数は、小学1年生から高校3年生までの22名とのこと。さまざまなお苦勞があたりだったろうに、辛いこと悲しいことに触れず、嬉しかったこと楽しかったことをにこやかに語られる。ただただ頭が下がる。こういう方がプレーヤーとしてチームに加わってくださったことに、心からの感謝を表明する。（H）

会費とカンパのお願い

2022年度の会費納入がまだの方は、よろしくお願ひします。
厳しい財政状況がつづいています。カンパもご協力いただけるとありがたいです。

年会費1口 個人 1000円 団体 3000円 学生 500円

口座名はいずれも「伊方原発をとめる会」

- 郵便振替 口座番号 01610-9-108485
- ゆうちょ銀行 通常貯金 記号 16190 番号 17866721
- ゆうちょ銀行 六一八支店 普通預金 1786672 [ゆうちょ銀行以外からの振込]
- 伊予銀行 本店営業部 普通預金 4679997

これからの予定

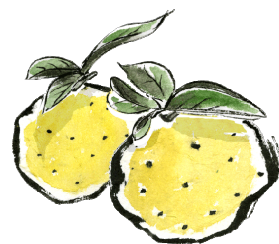
▼伊方原発いらん!! 松山市駅前定例アクション

12月7日(水) 12:15~13:00 松山市駅前改札口付近

2023年1月4日(水) 12:15~13:00

2月1日(水) 12:15~13:00

3月1日(水) 12:15~13:00



▼伊方原発運転差止訴訟 第31回口頭弁論

12月13日(火) 15:30開廷 松山地方裁判所31号法廷

原告の方は 14:00 裁判所ロビー集合

傍聴希望の方は14:30 //

*報告集会16:30頃~ 愛媛県美術館講堂

▼福島をくり返さない!

伊方原発いらん! 2・25講演会

2月25日(土) 13:30~15:30

松山市総合コミュニティセンター大会議室

講師: 馬奈木 徹太郎(まなぎ・いずたろう) 弁護士

(「生業を返せ、地域を返せ!」福島原発訴訟
弁護団事務局長)

▼福島をくり返さない!

福島原発事故12年目の集会とデモ

3月11日(土) 14:00~15:30

松山市駅前坊っちゃん広場

集会後、愛媛県庁前までデモ行進

▼伊方原発運転差止訴訟 第32回口頭弁論

3月14日(火) 14:30開廷 松山地裁

原告の方は 13:00 裁判所ロビー集合

傍聴希望の方は13:30 //

*報告集会15:45頃~ R2番町ビル

▼伊方原発をとめる会 第13回定期総会

5月28日(日) 13:30~

コムズ(松山市男女共同参画推進センター) 大会議室

記念講演: 海渡 雄一 弁護士

(脱原発弁護団全国連絡会共同代表)

編集後記

日曜夕刻の人気TV番組「笑点」のレギュラー出演者の落語家・六代目三遊亭円楽さんが、9月30日に亡くなった(72歳没)。病氣療養中で死因は肺がんとのこと。

「大喜利」では軽妙で機転の利いた名回答でやんやの喝さいを受け、司会の春風亭昇太さんへの悪態で観客席を沸かせた。素顔の円楽さんは実直な人柄だったらしいが、舞台ではひたすら「腹黒キヤラ」を演じ続けた。その腹黒は、観客・視聴者を笑いの渦に巻き込むための芸だった。いまは冥福を祈りたい。

ところで、現実世界では本物の「腹黒」が横行している。旧統一教会の反社会的な悪行の数々、東京五輪を巡る黒い疑惑、ウクライナ戦争を好機とした軍備拡張政策や新增設を含む原発回帰の政策など、枚挙にいとまがないほどの悪行三昧である。さすがに岸田政権の支持率は急落しているようだが、だからと言って、世直しに直結しそうな奥深いうねりのような動きは見えて来ない。

そんな中での今号。いつものことながら最終局面ではテンヤワンヤでの入稿となった。紙面へのご批判・ご意見をお寄せいただきたい。(MH)

伊方原発運転差止訴訟は、第6次提訴を行い、まもなく証人尋問の開始という新しいステージを迎えています。いっそうのご支援をよろしくお願ひします。これまでの裁判資料、訴状、原告意見陳述、原告準備書面、書証(証拠)などは、伊方原発をとめる会のホームページに掲載しています。ダウンロードしてご覧ください。郵送をご希望の方は、とめる会事務局までご相談ください。